あいち朝日遺跡ミュージアムの今を伝える情報誌【季刊誌】

朝日遺跡だより

2024年9月
vol.14

振り返りレポート
／企画展「弥生人といきもの2024 鳥に願いを」
弥生ムラづくりプロジェクトレポート／「田植え体験」他
シリーズ／ミュージアム収蔵品ファイルNo.13「S字状口縁台付甕」
図書紹介／「復元模型で見る日本の歴史」他
学芸員がお答えするQ&Aコーナー
／遠賀川式土器の特徴を教えてください。
連載／ミュージアムスタッフのこぼれ話
ショップグッズ紹介／「火起こし器」
古代体験プログラムのお知らせ
6月～8月のできごと
企画展「弥生時代の食事情」開催のお知らせ

あいち朝日遺跡ミュージアム

企画展開催風景

振り返りレポート

企画展 弥生人といきもの 2024 鳥に願いを

期間 2024年7月20日(土)～9月16日(月・祝)
場所 あいち朝日遺跡ミュージアム本館・企画展示室

弥生時代の鳥信仰

本展は恒例の夏休み期間の子ども向け展示として企画しました。いきものと弥生人の関わり方という視点から、弥生時代について紹介する展示の第4回目です。今回のテーマのいきものは「鳥」です。鳥は古くから世界中で信仰の対象とされ、弥生時代の日本でも稲に実りをもたらしたり、死者の魂を運ぶ存在として、また、境界を護る「物見鳥(ものみどり)」として神聖視されていました。鳥は自由に空を飛び、遠方や高所へも容易に行き来できます。このような人にない能力を持つことが多様な信仰につながっているのでしょう。また、弥生時代の絵画土器にはシャーマンが鳥装(鳥の姿を真似た服装)をしている姿が描かれたものがあり、これらはシャーマンがマツリの場を主宰している様子だと考えられています。

このような鳥への信仰は、弥生時代に大陸からの農耕文化の流入に伴って日本にもたらされたものだと考えられています。代表的な祭祀具である銅鐸や絵画土器に描かれた鳥の絵は、サギやコウノトリなどの水田によくやってくる水鳥に似ています。つまり、水田で稲作をする弥生時代の人々にとって身近な鳥が信仰の対象であったことが伺えます。

橿原市指定文化財　絵画土器(翼を持つ人)
坪井遺跡(奈良県橿原市)　弥生時代中期
橿原市蔵

ニワトリ伝来

ここに変化をもたらすのが、同じく弥生時代に日本に伝来したニワトリです。ニワトリは東南アジア原産のセキショクヤケイが中国で家禽化されたものと考えられています。つまり人の手で日本に持ち込まれた鳥であり、船しか海外と行き来する手段がなかった弥生時代では大変希少な存在でした。事実、ニワトリの骨が出土した弥生時代の遺跡は朝日遺跡をはじめ7つしかなく、いずれも各地域の拠点的集落でした。数も少なくオスの骨しか確認されていなかったことから、食用ではなく夜明け前に鳴く「時告げ鳥(ときつどり)」として大切に飼育されていたようです。しかし、2023年に初めて、化学分析によりヒナの骨が確認されたことから、限定的ながら日本での養鶏の開始が弥生時代に遡る可能性が出てきました。

ニワトリは朝日を呼ぶ存在であること、飼育自体が集落のステータスであったことなどから、古墳時代以降は祭祀の場に登場する鳥も、水鳥からニワトリへと交替していきます。仏教の影響もあり、その後も長い間、日本では表向きは食用目的の養鶏は行われてきませんでした。ようやく江戸時代中期以降に玉子料理が普及し、後期になると鳥鍋料理も食べられるようになりますが、食用目的の産業的な養鶏の開始は明治以降となります。

言い換えれば、それだけ長い時間をかけて、人と鳥との関係は変化をしながら続いてきたわけであり、その流れの一端がこの企画展で紹介できていたならば幸いです。

（田中　恵美）

ニワトリのヒナの骨　唐古・鍵遺跡（奈良県田原本町）
弥生時代中期　北海道大学総合博物館提供

大阪府指定有形文化財　鳥形木製品
池上曽根遺跡（大阪府和泉市・泉大津市）
弥生時代中期　大阪府立弥生文化博物館蔵

鳥形木製品　住崎遺跡（愛知県西尾市）
弥生時代終末期～古墳時代前期　西尾市教育員会蔵

企画展ポスター

弥生ムラづくりプロジェクト レポート

ボランティア「おもてなしムラ人」と共に弥生時代の稲作体験。
この夏は、田植えをしました。田んぼの成長を見守っていきます。

田植え体験

2024年6月1日（土）

弥生ムラづくりプロジェクトのメインイベント「田植え体験」を実施しました。まず、当館学芸員から「朝日遺跡」や「弥生時代のお米づくり」についての話を聞き、その後、屋外の体験水田へ移動。参加者全員が横一列に並び、ムラ人の皆さんが持つロープを目印に、1束ずつ手作業で稲を植えていきました。今年も“あいちのかおり”“焼津”“種子島”の3種類の稲を植えていきましたが、どのように成長するのか…。今から楽しみですね!

環境整備

2024年6月22日（土）・7月20日（土）・8月10日（土）

屋外の体験水田、史跡貝殻山貝塚交流館の前の畑、復元方形周溝墓の草取りをムラ人の皆さんと行いました。畑では、古くから日本で食べられてきた“ヒエ”“アワ”“キビ”を育てています。これらは乾燥した土壌でもよく育つ植物ですが、今年は連日の酷暑で心なしか元気がありませんでした。毎日水やりを行い、手塩にかけて育てています!体験水田のお米とともに、こちらの成長もご覧ください!

いきもの観察会

2024年7月27日（土）

水田生態系の多様性とこれを巧みに利用していた弥生時代の人々の生活について考え、体験水田に棲息するいきものたちを採取する「いきもの観察会」を実施しました。採取後は捕まえた生きものについて、熱田神宮営繕部林苑課の寺本匡寛さんに解説をしていただきました。他にも、「水田と生きものの関わり」や「外来種」についての話もあり、朝日遺跡に集まる生きものについても知る良い機会になりました。

シリーズ　ミュージアム収蔵品ファイル No.13

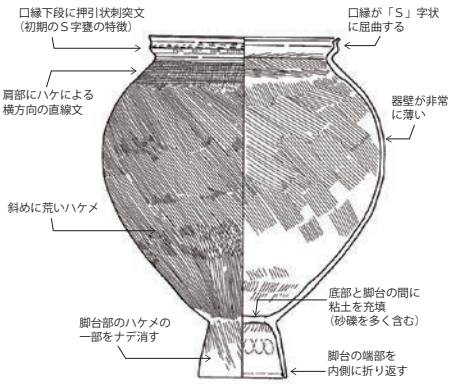
S字状口縁台付甕

S字状口縁台付甕（以下、S字甕）は、弥生時代終末期から古墳時代前期に、東海地方を中心に作られた煮炊き用の土器です。朝日遺跡からも複数出土しており、甕形土器として6点が重要文化財に指定されています。

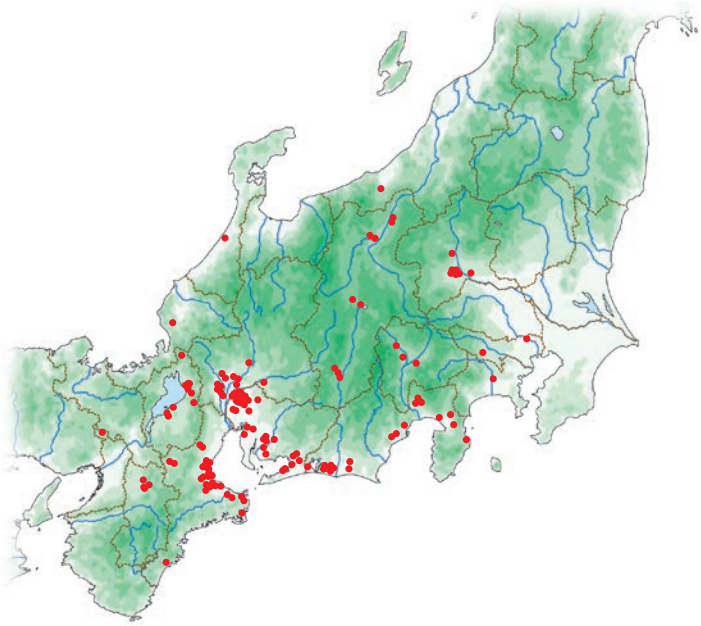
形態上の特徴は口縁部が短く屈曲することで、口縁の断面が「S」の字に見えることが名称の由来となっています。底には脚台が付くことで、安定して置くことができます。また、この土器は、器壁が非常に薄く作られており、最も薄いところでは2mmほどしかないものもあります。そのため、他の甕と比べとても軽量な点も大きな特徴といえるでしょう。この他にも、外面に荒いハケメがみられ、肩部には横方向の直線文が施される、脚台の端部を内側に折り返す、胴底部と脚台の接合部に砂礫を多く含んだ粘土を充填する、初期のS字甕は口縁下段に押引き状の刺突文を施すなど、製作上の細かなルールが定められており、きわめて規格的な作りとなっています。

S字甕は、その独特な形状や製作技法から、弥生時代から古墳時代にかけてのこの地域の文化を知るうえで重要な土器だと考えられています。2～3世紀初頭のS字甕は、三重県・愛知県・岐阜県の一部を含む伊勢湾周辺地域に分布しており、これらの地域で生み出されたと考えられます。しかし、3世紀になるとS字甕は全国的に分布が拡大しました。初期ヤマト政権の発祥地と目される奈良県纒向遺跡ではS字甕をはじめとする伊勢湾地方の土器が多く出土しており、伊勢湾地域から多くの人々が集まってきたと考えられています。また、伊勢湾より東では、東海東部、甲信越、北陸、関東、東北南部まで、S字甕が広がり、その分布は初期の前方後方墳や前方後円墳のあり方とも連動しているかのようにみえます。尾張をはじめとする伊勢湾地域から発した土器文化は、古墳時代の始まりという日本史上の大きな変革期の社会・文化を理解するうえで、重要な鍵を握っているといえるでしょう。

（原田　幹）



S字甕：朝日遺跡（重要文化財・本館蔵）



S字甕の特徴と分布

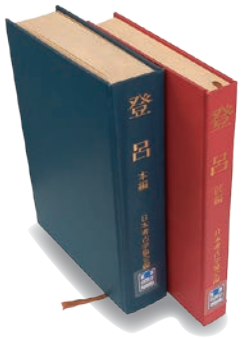
S字甕：朝日遺跡（重要文化財・本館蔵）

図書紹介

当ミュージアムの蔵書は、あいち朝日遺跡ミュージアムの前身である“清洲貝殻山貝塚資料館”の頃から集められた図書です。その数約8,500冊！一般書店では手に入らない調査報告書や全国の博物館で刊行された図録など見どころが満載です。
そんな自慢の蔵書からスタッフおすすめの図書を2冊紹介します。

『復元模型で見る日本の歴史』　山川出版社　2021年10月発行

この本は、日本各地の歴史博物館などにある復元模型を中心に収録した本です。旧石器時代から明治時代まで各時代の人々の生活の様子がリアルに表現されています。それぞれの博物館の学芸員による解説もわかりやすく、とても読みやすい本です。歴史博物館というと出土品や文献などの展示が主で初心者には難しいと感じるかもしれませんが、復元模型からイメージを膨らませて楽しむのもいいかと思います。
当ミュージアムの精巧なジオラマも掲載されています。ぜひ、双眼鏡で朝日遺跡の人々の様子を覗いていただければと思います。



『登呂』　前編　本編　日本考古学協会編　東京堂出版　1978年3月発行

この本は、昭和23年から25年に至る登呂遺跡第２次発掘調査報告書です。
まず、この本の目を引く特徴は装丁です。赤と青のクロス張り、角背に製本、タイトルが金の文字で印刷された装丁は、レトロで、重厚感があります。奥付に貼られた「著者検印」も魅力です。小さな薄い紙にはんこを捺し、それをのりで貼っていたかと思うと、その作業だけで幾人の方々が携わっていたのかと感慨深いです。登呂遺跡の大半は2m程の戦時中の埋立敷地の底にあり発掘には大変苦労した、などの記述をはじめ、内容も興味深いです。
史跡貝殻山貝塚交流館では、古い調査報告書も自由にご覧いただけます。ぜひ、お立ち寄りください。

学芸員がお答えする Q&A コーナー

ミュージアムでいただくご質問の中から、たくさんの方の「気になる」に学芸員がお答えします。

Q 遠賀川式土器の特徴を教えてください。

A 遠賀川式土器とは、福岡県の遠賀川の河床から出土した土器を指標とする弥生時代前期の土器です。水田稲作とともに西から東へとひろがっていき、その土器を真似て作られた土器は、遠賀川系土器と呼ばれています。主な器種は、種籾などを貯蔵するための壺、煮炊きするための甕です。壺は、口縁が長く、胴にかかる部分はハの字に直線的に強く張り、その下に描かれる模様には地域によって特徴があります。甕はバケツのような形をしており、口縁に刻み目を入れ、その少し下に沈線をいれることもあります。
遠賀川系土器が作られる地域の東の端は、朝日遺跡が所在する尾張地方です。尾張から三河にかけては、稲作を行う西の文化の影響を受けた遠賀川系土器と、縄文時代以来の土器の特徴をもつ条痕文系土器の両方が出土しています。尾張地方では遠賀川系土器が、三河地方では条痕文系土器が多く出土していることから、三河地方では遠賀川系土器が根付かなかったことがわかります。

弥生時代前期の土器

遠賀川系土器は、あいち朝日遺跡ミュージアムおよび史跡貝殻山貝塚交流館のどちらにも展示してありますので、土器が伝わった当時の風景に思いを馳せながら展示をご覧ください。

（松本　彩）

連載(シリーズ14)

ミュージアムスタッフのこぼれ話

学校との連携について

学芸課の宇佐見です。今年度から当館で勤務することになりました。よろしくお願いいたします。ちなみに昨年度までは県立高校の日本史の教員をしていました。教員時代の経験をミュージアムの運営に生かしていければと考えています。

当館では毎年、前年度の事業概要を「年報」という形で報告しています。(当館ホームページでダウンロードが可能です。)報告している事業内容の一つとして「学校教育との連携」があります。

例年、小学校6年生を中心に、多くの学校に来館していただいておりますが、昨年度は小・中・高校等あわせて28校にのぼりました。また、学校博物館という当館スタッフと学芸員が小学校を訪れて出前授業を実施する事業も、昨年度は小学校12校を訪ね、本物の土器や石器に触れたり、火起こし体験をしてもらいました。

また、昨年度から、新たな試みとして、8月に小中学校の教員向けの見学会を2回実施したり、学校博物館で使用している出土品等と同様の資料を小中学校に貸し出す学校博物館ミニセット貸与事業を始めました。今後も学校との連携を強化していきたいと考えていますので、授業等で考古資料を利用したい先生がお見えになりましたらご相談ください。

(宇佐見　守)

学校博物館の様子

教員向け見学会の様子

ショップグッズ蘊蓄(うんちく)紹介
「火起こし器」

古代の着火方法としては、鉄片を石英やチャートなどの堅い石に打ち付け火花を飛ばして点火する「火打石」が知られていますが、国内での使用は古墳時代以降のようです。それ以前の方法はよくわかりませんが、朝日遺跡の発掘調査では、縦長の杉板に円形に焦げたくぼみが並んでいる出土品があることから、板の上で木の棒を回転させ、摩擦熱により発火させたと考えられています。

具体的には、棒を両手で挟み、板に押し付けながら、錐(きり)のように回転させる「錐もみ法」、小型の弓の弦を棒に巻き付け回転させる「弓錐法」、現在も神社等で用いられ、今回紹介する「舞錐法」などが想定できますが、何れも相当な力が必要となります。バーベキューなど、秋のイベント用として如何でしょうか。

火きり臼:朝日遺跡(本館蔵)

火起こし器
大 ¥3,500 (税込)
小 ¥2,500 (税込)

古代体験プログラムのお知らせ

土・日・祝開催　会場:本館・体験学習室

10月
教材費 50円 / 各回先着 10人 / 時間 15:00~(45分)

ミニチュア石包丁づくり

スレート板を磨いてつくる自分だけの小さな石包丁。これで稲刈りができます。

作例

11月
教材費 450円 / 各回先着 10人 / 時間 15:00~(60分)

おうちで焼ける!土器づくり

オーブン陶土を使って小型の土器をつくります。自宅で焼いて仕上げよう!

作例

12月
教材費 350円 / 各回先着 10人 / 時間 15:00~(60分)

稲わらで正月飾りづくり

体験水田で収穫した稲わらを使って正月飾りをつくります。

作例

※2024年10月5日(土)から12月22日(日)までの土・日・祝日に開催(各1回)　※当日ミュージアム本館窓口にてお申し込みください。(事前予約はできません)

6月～8月のできごと

イベント

「ナイトミュージアム」

●日時：2024年8月17日（土）午後4時から午後8時まで
●場所：あいち朝日遺跡ミュージアム
●内容：通常午後5時までの開館時間を午後8時まで延長し、夜の史跡と史跡貝殻山貝塚交流館収蔵庫を学芸員と巡る「夜の史跡・交流館探検ツアー」や「復元展示ライトアップ」など、普段は見ることのできない夜のミュージアムを楽しんでいただきました。

「歴史講座＆歴史カードゲーム」体験会

●日時：2024年8月17日（土）、8月20日（火）、8月21日（水）
●場所：あいち朝日遺跡ミュージアム　本館（研修室）
●内容：夏休みのイベントとして、歴史カードゲーム「ハイスト教科書版日本の歴史東西決戦」を活用した歴史講座＆体験会イベントを行いました。歴史講座では、清須市の歴史についてお話をしたので、ゲームを楽しむだけでなく、地域の歴史についても楽しく学ぶことができました。

講座

「目指せ未来の考古学者」

●講師：松本彩（当ミュージアム学芸員）
●日時：2024年8月3日（土）、8月4日（日）
①午前10時30分から午前11時まで
②午後1時30分から午後2時まで
③午後2時30分から午後3時まで
●場所：あいち朝日遺跡ミュージアム
本館（研修室）
●内容：キッズ考古ラボや展示室で実際に展示品を見てもらい、その後研修室で興味をもった展示品に対してどうやって調べていくかの説明を行いました。

「古墳のつくりかた」

●講師：山田暁氏（名古屋市教育委員会学芸員）
●日時：2024年8月24日（土）午前10時から午前11時30分まで
●場所：あいち朝日遺跡ミュージアム　本館(研修室)
●内容：古墳の築造に関わる技術について最新の調査成果等を交えながら紹介しました。

講座ヒストリーカフェ

「ヤジリからキリになった石器の話」

●講師：原田幹（当ミュージアム学芸員）
●日時：2024年6月15日（土）午後1時30分から午後2時30分まで
●場所：あいち朝日遺跡ミュージアム　本館（研修室）
●内容：石鏃は、矢に取り付けられ、鋭い先端が対象に突き刺さる利器です。しかし、石鏃の中には、何らかの理由でキリ（錐）など別の用途に使われたものもあります。遺跡から出土した石鏃や石錐の先端を観察し、道具の役割について考えました。

講演会

「鳥に願いを!?遺跡から出土する骨からみた弥生人と鳥の関係」

●講師：江田真毅氏（北海道大学総合博物館教授）
●日時：2024年8月18日（日）午後1時30分から午後3時まで
●場所：あいち朝日遺跡ミュージアム　本館(研修室)
●内容：弥生人にとって鳥はどんな存在だったのでしょうか？朝日遺跡を始め弥生時代のいくつかの遺跡では、カモやツルなどの野鳥のほか、ニワトリの骨もみつかっています。それらの骨の分析から分かってきた弥生人と鳥の関係について紹介しました。

企画展 「弥生時代の食事情」開催のお知らせ

会期：2024年10月19日（土）～12月15日（日）

稲作が広まっていった弥生時代は、採集狩猟から農耕へと、食生活にも大きな変化があったと考えられています。一方、朝日遺跡では、コメなどの炭化種子のほかにも、コイやフナ、クロダイ、ハマグリやカキなどの魚貝類、イノシシやシカなどの動物の骨が多数出土しており、弥生時代の食の多様性という面からも様々な情報を提供してきました。

弥生時代の食生活はどのようなものだったのでしょう。本企画展では、出土した動植物や、それらを獲得する道具を紹介するとともに、弥生土器を対象とした、圧痕レプリカ分析、ススコゲ等の使用痕分析、残存脂質分析等の最新の科学分析から見えてきた弥生時代の食の実態について紹介します。

企画展チラシ

朝日遺跡だより vol.14
令和6年9月発行 発行・編集：あいち朝日遺跡ミュージアム

あいち朝日遺跡ミュージアムへ おでかけの方にお得なお知らせ

2施設来場でお得な「共通チケット」のごあんない

弥生時代 あいち朝日遺跡ミュージアム

観覧料
常設展も観覧できます

区分	一般	大学生・高校生（学生証のご提示が必要です）
個人	300円	200円
団体（有料20名以上）	250円	150円

※学校行事（高校以下）及びその引率者、中学生以下、障がい者の方及びその付き添いの方（1名まで）は無料

- 愛知県清須市朝日貝塚1番地
- TEL／052-409-1467
- 開館時間／9：30～17：00
- 駐車場／15台
- 休館日／月曜日（祝休日の場合は翌平日）及び年末年始（12/28～1/3）

戦国時代 清洲城

※あいち朝日遺跡ミュージアムから清洲城まで徒歩約10分

入館料

【大人】400円
【小人】200円（小中学生）※幼児無料

- 愛知県清須市朝日城屋敷1－1
- TEL／052-409-7330
- 開館時間／9：00～16：30
- 休館日／月曜日

※月曜日が祝日・振替休日の場合は、翌平日

あいち朝日遺跡ミュージアム 清洲城 共通チケット
2施設で計700円を 550円 発券より半年間有効

古墳時代 体感！しだみ古墳群ミュージアム

展示室入館料

【一般】200円
※中学生以下無料

- 名古屋市守山区大字上志段味字前山1367
- TEL／052-739-0520
- 開館時間／9：00～17：00
- 休館日／月曜日

※月曜日が祝日・振替休日の場合は、翌平日

あいち朝日遺跡ミュージアム 体感！しだみ古墳群ミュージアム 共通チケット
2施設で計500円を 400円 発券より半年間有効

大学生 高校生 2施設で計400円を 300円

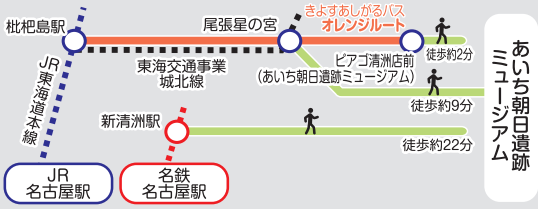
共通チケットは、各施設の窓口でご購入いただけます。

AICHI ASAHI SITE MUSEUM

あいち朝日遺跡ミュージアム

■ 愛知県清須市朝日貝塚1番地 ■ TEL：052-409-1467 ■ 駐車場 15 台

公共交通機関



クルマ

名古屋第二環状自動車道「清洲東IC」から約1分
清洲公園駐車場もご利用いただけます。
駐車場の数には限りがあります。出来る限り公共交通機関のご利用をおすすめします。

〒452-0932 愛知県清須市朝日貝塚1番地 TEL 052-409-1467

https://aichi-asahi.jp/ SNSもご覧ください

あなたに夢を、街に元気を。 クーちゃん宝くじ